

市民提案協働事業一覧

No.	テーマ	事業名称	提案団体	担当課
1	自由	目の不自由な方のためのスマホ・タブレット活用促進事業	パソコンボランティア青梅	障がい者福祉課
2	2	東京2020大会カヌースラロームのキャンプ誘致から考える、カヌー競技の魅力と奥深さ～多摩川周辺環境で行う「カヌー」を中心に持続可能なアクティビティスポーツを目的とした理解促進と派生展開～	s o c i a l u n i t U D O N (ソーシャルユニットウドン)	企画政策課・スポーツ推進課
3	3	森林資源の魅力発信事業	ゆめなりき	農林課
4	自由	第一回サマーフェスティバル	青梅サマーフェスティバル実行委員会	市民活動推進課・社会教育課
5	1	おそきの未来の青写真を創る事業	おそきの学校と地域を考える会	まちづくり推進課、教育部、住宅課、農林課、企画政策課、市民活動推進課

【自由提案】

市民活動団体が市と協働で実施したい事業について、自由な発想で提案するもの

【行政テーマ提案】

市が設定した次のテーマについて、事業を提案するもの

- 1 多世代が交流できる地域環境づくり
- 2 オリンピック・パラリンピックを契機とした交流・理解促進事業
- 3 森林資源の魅力発信事業

事業報告書

事業名

目の不自由な方のためのスマホ・タブレット活用促進事業



1 実施団体

パソコンボランティア青梅

2 担当課

健康福祉部 障がい者福祉課

3 実施時期

平成29年8月12日～平成30年3月31日

4 参加者（受講者）

（1）青梅市福祉センターでの受講者 7名

（2）聖明園での受講者 10名

補足：

当初5名の受講者を想定していたが、協働事業であることの効果により、17名の応募があった。機器の台数や1対1で付くサポーターの都合があり5名に限定する案もあったが、まずは全員の方に、協働事業に参加して頂くことを優先させた。

そのため、大きく福祉センターと聖明園の2グループに分け、そのグループに教室の期間を割り振ることで対応した。

また聖明園グループでは10名となったため、さらに2つのグループに分けて教室を実施した。

協働事業期間中に、時間不足で十分実施できなかった実践的な内容については、引き続きパソコンボランティア青梅の単独事業において、実施する予定である。

5 実施場所

(1) 青梅市福祉センター2階 集会室

(2) 聖明園曙荘2階 集会室

6 事業の目的

目の不自由な方が、スマホやタブレットの最新モバイルIT機器を生活用具として活用できることを目的とした。

これまで目の不自由な方には、スマートフォンやタブレットといった最新モバイルIT機器の利用は困難と思われていたが、技術の進歩により、目の不自由な方のための生活用具としての活用が手に届くようになった。

最新モバイルIT機器には、目の機能を補うアプリも充実してきている。

7 役割分担

・団体の役割

教育の実施（教材の作成、教育スタッフの提供）、教育機材の貸し出し、利用するアプリの選定、広報活動。

・担当課の役割

視覚しょうがい者への広報活動と、今後の視覚しょうがい者へのICTへの取り組みの協働。

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

一般応募者7名、聖明園応募者10名に対し、視覚しょうがい者に適したスマホ・タブレットの使い方をサポートすることにより、生活に役立てられることを認識して頂くことができた。

9 目標達成

事業の目標：

青梅市内の目の不自由な方、最大5名を対象に、スマートフォンやタブレットといった最新モバイルIT機器を生活支援用具として使えるようにする。

目標の達成具合：

目標5名を対象としていたが、合計17名の応募があり、機器やサポーターを工夫し

て、17名の要望に応えることができた。

また、この協働事業期間中に、4名の方がiPhoneまたはiPadを購入し、実際に生活支援用具としての使用を開始されていることは、当事業の成果として喜ばしいことである。

10 事業の実施内容

(1) 教室の実施

スマートフォンまたはタブレットを使いこなすために8ヶ月間の教育を実施した。

操作の学習をきめ細かくサポートするために受講者には1対1でサポーターが付く形式とした。

スマートフォン4台、タブレット3台、合計7台を用意し、期間中受講者に貸し出すとともに、受講者自宅で利用できるようにネットワーク環境も提供した。

そのため、7台中、5台分に関しては、格安データSIMをモバイル会社と契約し、モバイル通信により、どこでもネットワーク利用可能とした。残る2台については自宅のWiFi接続によりネットワーク利用可能とした。

合計17回の教室を開催し、延べ94名（各回平均5.5名）の受講者に対して、延べ130名（各回平均7.6名）の講師・サポーターによる2時間の講習を実施した。

(2) 補習の実施

決められた教室以外に少しでも、学習機会を増やすために、教室実施日の午後1時から3時まで、希望者には分かりにくかった点の質問対応や、復習や予習ができる補習を実施した。

延べ33名（各回平均1.9名）の補習の希望があり、延べ37名（各回平均2.2名）のサポーターによる補習を実施した。

表1. 教室および補習の実施一覧表

項番	実施日	曜日	時間	場所	受講者数	聴講者数	講師・サポーター数	補習受講者数	補習サポーター数	補足
1	2017/8/12	土	10時～12時	福祉センター	6	0	11	1	1	福祉センターでの受講グループ向け
2	2017/8/26	土	10時～12時	福祉センター	6	0	9	2	1	福祉センターでの受講グループ向け
3	2017/9/9	土	10時～12時	福祉センター	6	0	9	1	1	福祉センターでの受講グループ向け
4	2017/9/30	土	10時～12時	福祉センター	7	0	8	1	1	福祉センターでの受講グループ向け
5	2017/10/14	土	10時～12時	福祉センター	5	0	7	4	3	福祉センターでの受講グループ向け
6	2017/10/25	水	14時～16時	聖明園	12	0	6	0	0	聖明園向けオリエンテーション
7	2017/10/28	土	10時～12時	福祉センター	6	0	8	3	5	福祉センターでの受講グループ向け
8	2017/11/11	土	10時～12時	聖明園	5	1	9	2	1	聖明園第1グループ向け
9	2017/11/25	土	10時～12時	聖明園	5	1	7	4	2	聖明園第2グループ向け
10	2017/12/9	土	10時～12時	聖明園	5	4	7	3	3	聖明園第1グループ向け
11	2017/12/23	土	10時～12時	聖明園	4	2	8	4	7	聖明園第2グループ向け
12	2018/1/13	土	10時～12時	聖明園	5	2	6	2	2	聖明園第1グループ向け
13	2018/1/27	土	10時～12時	聖明園	3	1	8	2	3	聖明園第2グループ向け
14	2018/2/10	土	10時～12時	福祉センター	3	0	7	1	1	福祉センターでの受講グループ向け
15	2018/2/24	土	10時～12時	福祉センター	4	0	6	1	4	福祉センターでの受講グループ向け
16	2018/3/10	土	10時～12時	福祉センター	6	0	7	2	2	福祉センターでの受講グループ向け
17	2018/3/31	土	10時～12時	福祉センター	6	0	7	0	0	福祉センターでの受講グループ向け
合計					94名	11名	130名	33名	37名	
平均					5.5	0.6	7.6	1.9	2.2	

(3) デイジー図書作成

講座の内容を視覚しょうがい者が予習・復習できるように以下のデイジー図書を作成し、受講者に配布した。

デイジー図書1. スマホ・タブレット教室基礎講座テキスト

- 第1回目 iPhone/iPad の概要紹介
- 第2回目 アプリを使う
- 第3回目 Siri を使う
- 第4回目 キーボードの音声入力を使う
- 第5回目 WEB の閲覧

デイジー図書2. VoiceOver ハンドブック

- 第1章 VoiceOver のジェスチャー一覧
- 第2章 ホーム画面の操作
- 第3章 ホームボタンの使い方
- 第4章 アプリ紹介
- 第5章 Siri 文例集
- 第6章 困ったときの対処法
- 第7章 用語集

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- ・想定以上の多くの受講者の応募があり、これらの方に基礎的な講習をできたことは大きな成果であった。とはいえ、大勢の受講となったため、ひとり一人には十分な対応ができなかった面がある。

これらの方に対するサポートを、パソコンボランティア青梅の事業として、引き続き実施する必要がある。

- ・多くの参加者が貸出した機器での受講だったので、利用者ひとり一人の見え方や目の困りごとに合せた機器の設定や各人の事情に応じた指導・支援が十分でなかった。今後は個人の事情に合わせた指導と支援ができるようにしていく必要がある。

- ・目の代わりになるアプリや機能の紹介・練習と情報収集、音声アシスタント機能の利用まで練習したが、積極的な情報発信や趣味などの余暇での活用方法など今後の課題はまだまだまだたくさんあると考えている。

- ・実際に機器を生活用具として利用していくにはバージョンアップや新しいアプリなどに対応できるスキルも同時に求められるので、そういった点までできるようにしていく必要がある。

- ・晴眼者の場合は、講習用の図入りマニュアルが有効であるが、視覚しょうがい者には、適切なマニュアルがないのが実情である。

視覚しょうがい者になじみのある PlexTalk などの専用機器を使う形になるが、デジタイ規格の音声マニュアルを充実する必要性を改めて認識した。

幸い今回の事業で、聴きやすい音声のデジタイ図書を低コストで作成するノウハウが得られたので、講座の内容や受講者の知りたい内容を引き続きデジタイ図書として作成し、無料提供することを実施していきたい。

13 その他

- ・青梅市への要望事項を以下にまとめました。

（1）視覚しょうがい者のスマホ・タブレットの購入の助成

視覚しょうがい者にとって、スマホ・タブレットはこれからますます有効になる IT 機器であり、当会として積極的に使い方をサポートしていくつもりである。

視覚しょうがい者もスマホ・タブレットを使いたいが、機器の購入という最初の壁を越えられないのが実情である。

市としても、視覚しょうがい者がスマホ・タブレットの購入にあたって少しでも助成をお願いしたい。

（２）視覚しょうがい者のスマホ・タブレット用アプリの購入の助成

パソコン用と比べ、スマホ・タブレット用アプリの価格は低額ではあるが、しょうがい者のための有料アプリの購入に関しての助成をお願いしたい。

（３）音声コードの活用をお願い

視覚しょうがい者にとって、音声コードは画像認識以上に正確に情報を取得できるものである。この音声コードを読み取ることは、スマホ・タブレットを使用すれば高価な専用の機器を用いなくても簡単にできるようになっている。

青梅市発行の配布物に音声コードを積極的に記載して欲しい。

（４）パソコンボランティア青梅との協働をお願い

・視覚しょうがい者のためのスマホ・タブレット教室、パソコン教室を当会が無料で実施していることを、窓口に来られた方に紹介して頂くようご協力をお願いしたい。そのための一つの手段として、当会のリーフレットの活用をお願いしたい。

・協働事業以降においても、当会の事業として、引き続き、この教室を実施していくことが決まっている。

今回の担当課である障がい者福祉課においても、引き続き新規の受講者募集に関する広報活動にご協力をお願いしたい。

当面の広報としては、当会が協働事業以降も「視覚しょうがい者のためのスマホ・タブレット教室」を継続して行うことに関して、広報おうめへの記事掲載についてご支援をよろしくをお願いしたい。

事業報告書

事業名

東京 2020 大会カヌースラロームのキャンプ誘致から考える、
カヌー競技の魅力と奥深さ

～多摩川周辺環境で行う「カヌー」を中心に持続可能なアクティビティスポーツを目的とした理解促進と派生展開～



1 実施団体

social unit UDON

2 担当課

企画政策課・スポーツ推進課

3 実施時期

2017年5月29日～2018年3月28日

4 参加者

合計：24名

5 実施場所

青梅市役所 2F 喫茶スペース / 釜の淵市民会館

6 事業の目的

有限な多摩川の自然環境下で行う「カヌー」や「アクティビティスポーツ」、そしてそれらを行う為の「周辺環境」を今後も持続的に利用・活用できるように一人一人がそれらの背景や特徴を理解する。

7 役割分担

・団体の役割

- 企画・司会進行・渉外(講師依頼)・会場準備・チラシ作成・受付
- ・担当課の役割
- 活動場所の提供広報活動のサポート

8 事業の効果 (どのような地域課題が解決できたか)

青梅市といえば「カヌーの聖地」と以前から呼ばれるが、市民の中でもそのような意識や考えがあまり浸透していなかったことが現状の課題としてあり、そして有限な多摩川の自然環境を市民一人一人が意識する事も同時に課題としてあった。

事業を通じて

①青梅市における市民一人一人へのシビックプライドを一部追求できた

上記課題から市民一人一人が住生活を送っている青梅市の有益と呼ばれる「情報」(固定概念)などが薄れていることが現状課題としてあり、「カヌー」も例外ではなく競技などに関わる方々などは日本では青梅市(御岳)がカヌーの聖地と呼ばれることが当たり前と考えているが、市民の中ではそのような意見が割れる現状があったため、競技・競技を行う環境の情報などを知る事によって、青梅市内におけるシビックプライドの一部を参加者と共に深く共有できた。

②「カヌー(競技)」や競技を行う上での「環境」を深く知る・見る・触れたことによる競技全体・普及活動への貢献

③東京 2020 大会での青梅市が取り組むカヌーキャンプ誘致の認知向上とその波及効果の拡大

9 目標達成

事業の目標：東京 2020 大会の競技である「カヌー」の種目やそれらに関わるヒト・モノ・コト・バの理解促進の向上。市内における多摩川周辺環境を利用・活用するカヌーやアクティビティスポーツ自体と無縁である在住市民などを対象とした認知、そして多摩川の環境下で行われるカヌーを中心としたアクティビティスポーツにまつわる新たな派生展開が

生まれる事を目標とする。

目標の達成具合： 事業を通じて実際にカヌー競技やそれらに関わるヒト(当事者 / ユーザー 周辺住民/市民 etc)・モノ(競技で使用する備品等)・コト(当事者～市民が一本の「線」でつながるキッカケ)・バ(コトでつながるための「場」の形成 / 御岳渓谷を中心とするカヌーなどを行うための「環境の確保」)の理解促進が実際に一般市民から当事者の方を踏まえ「対話の場」を通じて行えた。

カヌー競技だけにとどまらず、競技を行う上での「環境」にも着目したことで今後もアクティビティスポーツ競技等を行っていく為の持続可能な展開やアイデア展開にまつわる議論やワークショップが行われ、次のステップに繋がる派生展開の兆しが生まれたと考える。

10 事業の実施内容

【年間総事業】

～第一回～

07/29(土) 13:30～16:30 釜の淵市民会館

「カヌーの聖地を実感 カヌーと一緒にぷらっとカフェ」

参加者：6人 スタッフ：3人

参加費：300円

協力：青梅市カヌー協会

内容：東京2020大会開催に向け、青梅市では、「カヌーの聖地」である御岳渓谷へのカヌースラローム競技のキャンプ誘致に取り組んでいます。カヌー競技の魅力と奥深さを探る連続講座を開催するにあたり 第1回目として、カヌー競技の基礎的な部分に重点を置き、実際にカヌーに触れつつ、「カヌー競技」を身近に感じる事を目的としながら「対話の場」を形成。

当日は青梅市カヌー協会会長である藤野強氏にご登壇いただき、カヌ

ーの基礎となる説明から青梅市でのカヌー競技の取り組みや現状等、競技を行う上での「カヌー」本体の説明など普段の生活で中々得られることができない地上での体験企画を行った。

対話の場を形成するにあたって、参加者はカヌーについて知っていることを挙げてもらい、東京 2020 大会に向けてのカヌーキャンプ誘致に向けて企画政策課の方からお話をしていただき、その中でカヌーの聖地である青梅市でカヌー競技等を東京 2020 大会に向けてより知ってもらう具体的なアイデア展開を行い一回目の事業を終えた。

～第一回～ 当日写真

07/29(土) 13:30～16:30 釜の淵市民会館

「カヌーの聖地を実感 カヌーと一緒にぶらっとカフェ」



～第二回～

10/14(土)13:00～17:00 青梅市役所 2F 喫茶スペース

『映画 僕らのカヌーができるまで を観て考える、青梅の「自然×アクティビティスポーツ」の共存』

参加者：15人 スタッフ：3人

参加費：500円

協力：青梅市カヌー協会

ゲスト：デザインコンサルタント 益田文和

青梅市カヌー協会会長 藤野強

森の演出家 土屋一昭

カヌー競技の魅力と奥深さを探る連続講座として、第2回目の今回は、競技という枠組を超えたカヌーの「歴史」や、アクティビティスポーツを行う為の「自然」にスポットをあて、「カヌー」を中心とした多摩川周辺の環境を活用するアクティビティスポーツの理解促進を目的として映画上映と対話の場を形成した。

多摩川の自然環境を再確認し、その維持可能な利用・活用が出来るように、参加者がカヌーの歴史を含めて理解促進を図るため第一部_映画上映、第二部_参加型ワークショップ(対話の場)を行った。

第一部の映画上映後、第二部のワークショップではゲスト3人による事例紹介や活動の取り組みを紹介していただきながら、ゲスト自身が考える青梅市のカヌー競技や自然環境などにまつわる様々な参加型のトークセッションを行った。

参加者にはオリンピック以降も多摩川を中心とした周辺の自然環境がどんな活用展開、そして多摩川を中心とした周辺の自然環境の活用をしていくために今現在、課題になっていることを挙げてもらい、参加者全員で今後の課題意識や新たなアイデア展開に繋がる共有を行い第二回目の事業を終えた。

～第二回～ 当日写真

10/14(土)13:00～17:00 青梅市役所 2F 喫茶スペース

『映画 僕らのカヌーができるまで を観て考える、青梅の「自然×アクティビティスポーツ」の共存』



～第三回～

03/28(水)18:30～20:30 青梅市役所 2F 喫茶スペース

「多摩川周辺のスポーツについて考えてみよう」

参加者：3人 スタッフ：3人

参加費：無料

カヌー競技の魅力と奥深さを探る連続講座として、第三回目となる今回は、カヌー競技という枠組を超えたスポーツ / アクティビティスポーツを行う為の青梅市が誇る「自然」や「多摩川」にスポットをあてながら、多摩川周辺環境のスポーツを盛り上げる方法と新たな可能性を探りました。そして、東京 2020 大会を数年後に控える中で、青梅市ならではの地形や環境を活かした「スポーツ / アクティビティスポーツ」の新たな物事 / ア

アイデアやその展開を考えてゆく「対話の場」を形成。
また年間事業の最終まとめと報告会を行った。

アイデアを展開する上で青梅市が誇る自然環境のつながりをうまく活用し、2020 東京大会以降に実際に主要競技として行えるベースでアイデアを展開。

カヌー競技以外にも青梅市の多摩川周辺環境で様々なアクティビティスポーツが盛んに行われていることを確認しながら、今後の青梅市の象徴ともなり得る可能性があるアイデアを参加者と共に共有しながら年間事業の最終まとめと報告会を行い第三回目となる事業を終えた。

年間参加者合計

参加者：24人 / スタッフ：9人

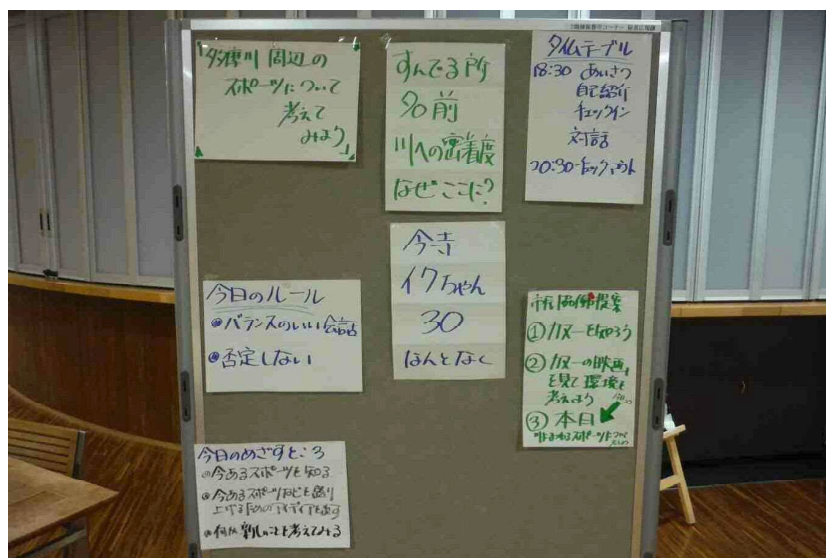
*当初の計画では年間四回を行う予定であったが、第二回事業が終了後担当課や協力先と相談した上で事業計画上の第三回目を延期とし、当初の予定でもあった第四回を第三回目と一つの回として年間事業の最終まとめと報告会を行った。

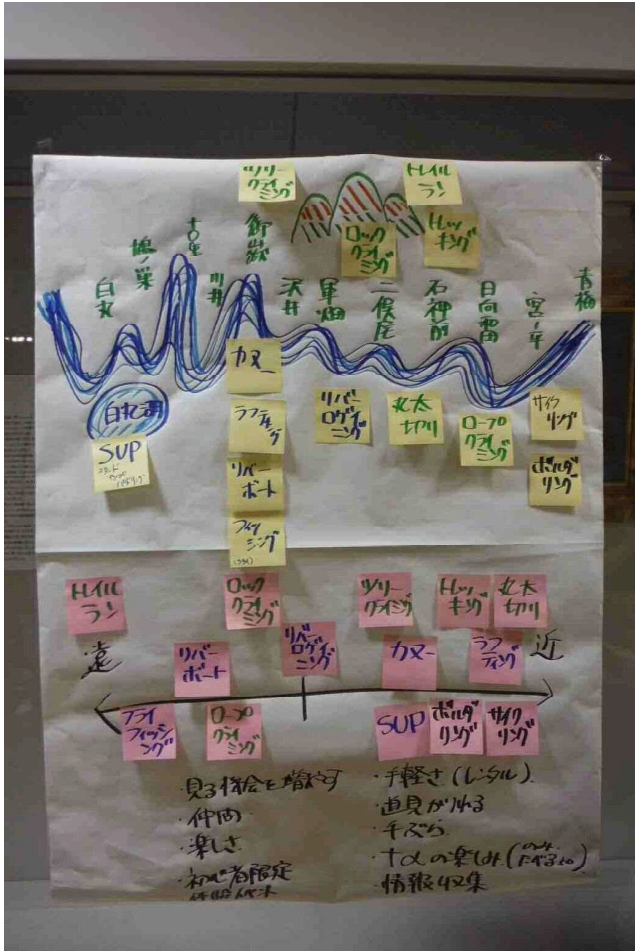
*各事業結果の開催写真は別紙参照

～第三回～ 当日写真

03/28(水)18:30～20:30 青梅市役所 2F 喫茶スペース

「多摩川周辺のスポーツについて考えてみよう」





青物トイアスロン
 アリベツホン
 場所: 妙川ニ保尾園
 対象: 打撃の人
 人此: うつろくの人
 昔の平子の人
 クイズ(青物田: 2月) 顔
 会場: 有線社館4L

解決はこれ
 OK
 ◎今の中に青物
 佳双オトエ入
 IL-IL → 12月
 12月
 ◎事前練習会あり
 (和化者あり)

内容: 7月-10月
 + 女木
 + 昔の平子
 E細部世界青物
 妙川トイアスロン

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	3	3
(4)協働相手は適切だった	3	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	3	3
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	2	2

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

弊団体 (social unit UDON) の強みは数字では評価できない定性的な部分を様々なコミュニケーションスキルや対話の場を通じて形成していくことであり、今回の H29 青梅市市民提案協働事業では団体として全てが初の試みであったが、NPO 化を目指す一歩として今回の協働事業はとても欠かせない経験となった。

事業を通じての課題は「広報力」であり、私たちの団体を知らない方々に一瞬で伝わるような事業の組み立てや内容等をいかに発信できるかがポイントであると考えている。

そして数字では評価が難しいアイデア展開や定性的なソリューション部分をいかに参加者へ共感してもらうかというような部分が今後の団体、そして協働事業へチャレンジしていく事だと考える。

また、自身の団体となる自己分析を徹底的に行い、協働相手となる担当課や協力先との連携を図り、更なる団体の強みを生かした事業展開とそのシ

ユミレーションを行うことが最も重要だと年間事業を通じて痛感した。

13 その他

①連携不足

今回、協働事業を行った大元のテーマである「オリンピック・パラリンピックを契機とした交流・理解促進事業」にて、当時のスポーツ推進課様との連携不足により H29 年度市民提案協働事業にてスポーツ推進課様と事業を行えなかった点は弊団体として大変申し訳なく思う。

理由としては、弊団体は事業を行っていく上でカヌーを中心とした多摩川周辺環境で行う「アクティビティスポーツ」という言葉を大きな枠の上での「スポーツ」として捉えていたが、スポーツ推進課様とのお考えや方針と異なっていた点もあり、その点でうまく連携が図れず協力の申し出があまり行えなかった。

②事業回数の短縮

「12 まとめ」にて「団体の強みを生かした事業展開とそのシュミレーションを行うことが最も重要」と記載した通り、第三回目予定事業の延期として前半二回の事業後に後半事業の軌道修正が必要であった。また、第三回目予定事業はイベント型の事業であり、弊団体発足後今迄に行った事がないようなタイプの事業であった為メンバー内・担当課・イベント型事業に詳しい外部協力者などと慎重に相談した結果延期を決断。

③必要経費

当初の予定では第三回目予定事業に費用がかかると見込み前半の事業は持ち回りの備品等で対応したが、第三回目予定事業が延期となった為必要予定経費はその後使用せず年間事業終了とともに返納の手続きを行う予定。

事業報告書

事業名 「森林資源の魅力発信事業」



- 1 実施団体 ゆめなりき
- 2 担当課 農林課
- 3 実施時期 平成29年6月5日～平成30年3月25日
- 4 参加者 森林所有者・地域住民・事業者・若者・子育て世代
- 5 実施場所 青梅市内山林及び市内施設
- 6 事業の目的 青梅市内の半分以上ある63%の森林の魅力の発信
- 7 役割分担
 - 団体の役割
 - ・ 市内外の若者や子育て世代への呼びかけ
 - ・ 森林を利活用するイベントの運営
 - ・ 森林の魅力発信
 - 担当課の役割
 - ・ 市内遊休山林（放置林）の情報提供
 - ・ 私有林所有者とのマッチング
 - ・ 施設及び市有林の利用許可

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

市内外の若者や子育て世代を中心に、森と人との繋がりを伝え、森林に対する意識を高め遊休山林の利活用を図れた。

9 目標達成

事業の目標：遊休山林の利活用をしながら、参加者、スタッフ一同、森や木に触れあい、体験活動を通じ相互交流を図るとともに、森林の魅力を感じてもらうことを目標とする。
また、その活動内容の情報を発信することを目的とする

目標の達成具合：遊休山林の利活用をしながら、参加者、スタッフ一同、森や木に触れあい、体験活動を通じ相互交流を図ることができ、森林の魅力を感じてもらうことができた。
また、その活動内容の情報をインターネット等を通じ、市内外多くの方に知っていただき、街と田舎の交流もできた。

10 事業の実施内容

- 6/5(月)以降より青梅市農林課とゆめなりきで、森林資源の利活用できる山林の選定。利用許可の申請・承認。

- 8/6(日)第1回目のイベント開催

青梅市成木7丁目の利活用できる山林（※以下 かみなりきの森）と木造施設を利用し、子育て世代を中心とした森のお仕事体験や、森のようちえん企画（なりきむらあそびの森）も盛り込み、森のお話、工作体験、流しそうめん、川遊びなどを行った。

※総勢40名（参加者32名／スタッフ8名／農林課2名）



- 10/1(日)事業実施会場森林 整備

青梅市成木 4 丁目の放置山林（※以下 あまがさすの森）をスタッフメンバーで整備開始立ち枯れ木、雪折れ木などの、支障木の除去作業

※スタッフ 3 名



- 10/23(月)事業実施会場森林 整備

あまがさすの森、スタッフメンバーで台風 21 号の影響確認と、支障木の除去作業。

※スタッフ 2 名



- 10/29(日)第 2 回目のイベント開催

雨天のため、あまがさすの森から、会場をかみなりきの森の近くの木造施設に会場を変更。森のようちえん企画(なりきむらあそびの森)を中心に木の実や木材など森の恵みを活用したクラフト体験、森のお話を実施。

※総勢 26 名（参加者 16 名／スタッフ 7 名／農林課 3 名）



- 11/11(土)事業実施会場森林 整備

あまがさすの森、スタッフメンバーで、支障木の除去作業。
会場の整備作業。

※スタッフ3名



- 11/23(木)事業実施会場森林 整備

あまがさすの森、スタッフメンバーで、支障木の除去作業と、
山林内、遊歩道の開設作業

※スタッフ3名



- 12/10(日)事業実施会場森林 整備

あまがさすの森、スタッフメンバーで、支障木の除去作業と、
山林内、遊歩道の開設作業

※スタッフ2名



- 12/17(日)事業実施会場森林 整備

あまがさすの森、スタッフメンバーで、支障木の除去作業と、山林内、遊歩道の開設作業

※スタッフ4名



- 3/18(日)第3回目のイベント開催

あまがさすの森にて、親子森林体験を実施。動物・自然観察、森あそび、プチ林業体験、森のようちえん企画(なりきむらあそびの森)も併設し、それぞれの参加者の興味ある分野ごとに、森林の魅力を発信した。

※総勢46名(参加者35名/スタッフ5名/農林課3名/講師3名)



11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	3	3
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- 雨天時のプログラムを考えると、施設が隣接している山林での、イベント実施が望ましい。

（案：山林隣接の自治会館、空き家等の利用）

- 放置山林をフィールドにする場合、森林所有者からの情報提供や境界調査、隣接森林所有者への挨拶が事前に必要である。

（案：青梅市内の森林所有者情報の集約化と境界情報の集約化）

- 今後、このような森林の魅力を伝えたり感じたりする企画は、増える傾向にあると思うが、経験者、指導者が不足している。

（案：指導者育成）

13 その他

本事業を通じ、以下 3 つの動きが生じた。

- ① あまがさすの森、近隣住民との交流により、山林までの道が地域の方のご厚意により綺麗になった。木の小枝、ハチの巣等の除去。
- ② 1/27(土)開催された、成木地区教育環境等研究会 主催の「森林教育講座」のフィールドとして、あまがさすの森を活用してもらえた。
成木小学校をはじめとする、成木保育園、青梅市立第 7 中学校との繋がりができた。



- ③ 東京都小学校社会科教育研究会の教職員をはじめとする方々が、小学 5 年生の社会科の授業「わたしたちの生活と森林（小単元名）」の授業内容の作成のため、1/8(日)、1/27(日)に分け、合計 40 名程の都教職員が、あまがさすの森に訪れた。普段あまり関わることのできない人たちとの交流ができた。また授業の最終日 2/23(金)には、世田谷区立等々力小学校で行われた研究発表会に招かれた。子供たちの意識の高さに驚いた。



以上

事業報告書

事業名 第一回・青梅サマーフェスティバル

写真



1 実施団体

青梅サマーフェスティバル実行委員会

2 担当課

市民活動推進課、社会教育課

3 実施時期

開催日:2017年8月27日(日)

事後ミーティング:2017年8月29日(火)

4 参加者

- ・一般市民
- ・出演者:emanation Dance Studio、青梅市立第一小学校ピアジェ学級、青梅市立吹上中学校吹奏楽部、樹キッズダンスチーム、和太鼓灯音(ビート)、青梅フラダンス連盟、青梅市立第三小学校金管バンド、NFPファミリーダンス、青梅太鼓、セントラルフィットネスクラブ西東京/青梅むすめ、鼓夢OME、アンサンブル花音、青梅総合高校 Grow up!!、青梅総合高校農林太鼓
- ・模擬店:あゆみの家(やきとり)、がま口屋(がま口)、印度亭(カレー)、青少年新町地区委員有志(かき氷)、明光義塾(ヨーヨーなど)、美登里屋(タイ飯)、トンキチ(ライスメンチ)、灸堂(タイやきそば)、小山製菓(まんじゅう・だんご)、いなりや(焼うどん)

5 実施場所 青梅市総合体育館

6 事業の目的

青梅の活性化を図るため、中高生を中心とした音楽・ダンスの発表の舞台を作ること。また企画の運営も中高生が行い、それを実行委員会がサポート。音楽フェスティバルの企画運営を通じて世代を超えた交流を創出すること。

以下のコンセプトに基づき、活動します。

- (1)市民が参加できるイベントを企画、制作、運営し、地域の活性化を図る。
- (2)子どもたちが力を発揮し表出できる環境を支援する。
- (3)常に試行錯誤とチャレンジを重ね、賑わい空間を創造する。

7 役割分担

- ・団体の役割

企画運営、当日運営、出演団体・模擬店との調整、広報活動、警備、ポスター・チラシ作り

- ・担当課の役割

当日運営、広報活動、出演団体との調整

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

・小・中・高校生を中心としたダンスや音楽の発表の場を創ることができた。

- ・イベントの企画運営に中高生に参加してもらった。

→市民会館閉鎖などによる市内での発表機会の減少の中、新たな発表の舞台・機会を提供。

→親子で来場いただき、夏の思い出になるイベント。

→子どもたちが力を発揮する機会。世代間の交流

9 目標達成

事業の目標：音楽フェスティバルの企画運営を通じて、地域の活性化、中高生の活躍の場、世代間の交流などを創出する。

目標の達成具合：第一回目の開催ということで、今後続けていく上での基本的なベース作りが達成されたと考えます。

10 事業の実施内容

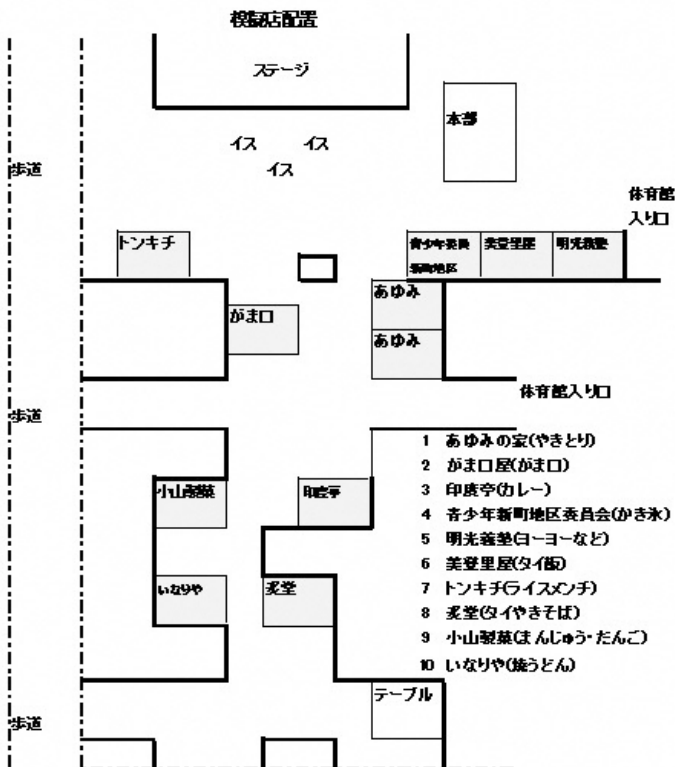
- ・青梅市総合体育館にて

第一スポーツホール・・・小中学生音楽、ダンス、太鼓

体育館外広場・・・演奏、ダンス、模擬店

第1回(2017.8.27) 青梅サマーフェスティバル 出演団体タイムスケジュール

時間	トラックステージ	体育館内ステージ
9:50	開会式	
10:00	emanation Dance Studio	青梅市立第一小学校ピアジェ学級
10:30		青梅市立吹上中学校吹奏楽部
11:00	樹キッズダンスチーム	和太鼓 灯音(ビート)
11:15	青梅フラダンス連盟	
11:30		青梅市立第三小学校金管バンド
12:00	NFPファミリーダンス	青梅太鼓
12:30	セントラルフィットネスクラブ高梁寮/百穂むすぶ	鼓夢OME
13:00	アンサンブル花音	青梅総合高校Grow up!!
13:30		青梅総合高校農林太鼓



11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	団体	担当課
(1)事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	3	3
(3)協働の役割分担は適切だった	3	3
(4)協働相手は適切だった	4	3
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	3	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4
(8)設定した目標が達成された	4	4
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	3

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- ・スポーツ推進課とも協働の担当課にする。
- ・来年の開催にあたり、日程をどうするか。
- ・来年の開催にあたり、予算をどうするか。
- ・出演団体との交渉を早めに行う。
- ・中高生の実行委員の活性化
- ・フェスティバルのさらなる充実・拡充にむけて協力団体を増やす。

13 その他